

第 10 回 第 5 期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成 27 年 3 月 13 日（金） 午後 7 時 00 分～ 8 時 25 分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3 階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎
（敬称略） 木村 浩 迫田洋平 田口 誠 竹下 登 中里陽一
西上原節子 能勢方子 山谷修作
- 【事務局】 齋藤課長 和地クリーンセンター所長 他
- 【欠 席】 古川浩二
- 【傍 聴】 1 名
- 【配布資料】
- 資料 1 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画
- 資料 2 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画（資料編）（当日配布）

議 題

（1）前回会議要録の内容確認について

≪事務局より、前回会議の要録については作成中であるため、今回会議の要録と合わせて各委員に郵送する旨の説明を行った。≫

1 開 会

【委員長】

これから、第 10 回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

議題（1）前回会議要録の内容確認については事務局説明のとおりなので、議題（2）

①武蔵野市一般廃棄物処理基本計画案について事務局の説明を求む。

≪事務局より 資料 1 「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画」の内容について、説明を行った≫

【委員長】

ご意見があれば承りたい。

【A委員】

27 ページの「(5) 生ごみ・剪定枝・落ち葉等資源化処理の取り扱い」の主な事業案の所で「各主体に対してごみや資源物を減らす自主的な取り組みの啓発・推進」という文章があるが、剪定枝・落ち葉を資源物とすれば、ここでの“ごみ”という言葉は“生ごみ”とした方が良いのではないか。

【委員長】

剪定枝・落ち葉は資源として扱っている。すると“ごみ”というのは“生ごみ”しかない。ただ、この部分での意図は資源化にも費用がかかるため「資源物も減らす」という事だと思うが、現実問題として「家庭から出る落ち葉や剪定枝を減らす」ということは難しいのではないか。この部分は生ごみに絞った表現の方が良いのではないか。

【事務局】

「生ごみを減らす自主的な取り組み」とするか、もしくは「生ごみ等の減量・資源化の自主的な取り組み」という表現もあるかと思う。「減らす」という表現を使うと、どうしても落ち葉や剪定枝の問題が出てきてしまうので。

【委員長】

確かに「(5) 生ごみ・剪定枝・落ち葉等資源化処理の取り扱い」は生ごみだけを取り上げた部分ではないので、剪定枝や落ち葉についても包括できるような表現が良い。「生ごみ等の減量・資源化の自主的な取り組み」という表現を、主な事業案の1行目と2行目の「ごみや資源物を減らす」という文言と差し替える。35 ページの事業計画案についても、同様の修正を加えるということにしたい。

他に文案についてのご意見は何かあるか？ ご意見無ければ、このような形で修正を入れるという事で、基本計画文案についてご承認をいただく、という事でよろしいだろうか？

(異議なし)。

それでは、次に議題(2)の②「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(資料編)」について事務局より説明を求む。

「事務局より、議題(2)の②「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(資料編)」の説明を行った。」

【委員長】

それでは議題(2)の②「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(資料編)」についてご意見があれば、お願いしたい。

【事務局】

14 ページの「3. 1日一人あたりの武蔵野市のごみについて」の表であるが、多摩地域における相対的な武蔵野市のごみの状況を示す目的で作成したものである。事務局としては、現在、表に記載している三多摩各市で比較した分別区分ごとのごみ量の順位を出すかどうかで悩んでいる。例えば資源物としての紙の排出量では、行政収集でも集団回収でも多摩の平均と比べ 25%程度多くなっている。この場合、それだけ紙が資源に回っているというプラスの評価なのか、排出量が多いというマイナスの評価なのか、という判断が悩ましい。是非、その取扱いについてご議論いただければ、と思う。

平均欄のカッコの中の数字は、武蔵野市が多摩の平均にどれだけ近いのか、あるいはかけ離れているのか、を示すものであるが、順位の場合は数字の多寡により機械的に順位付けしているが、実際にはいくつもの市においてかなり僅差だということもある。

【B委員】

個人的には、順位は出さないほうが良いと思う。最大と最少と平均が出ていれば、あまりこだわる必要はないのではないかと。紙の資源化についてだが、行政収集 125%、集団回収 126%と多摩の平均を上回っているというのは、資源化されているのだから良い数字だと、普通は思うのではないかと。21 ページの「1. ごみの減量資源化目標値」の中で、今後の資源化目標で、燃やすごみの中から紙をさらに資源化に回すという目標をたてている。むしろ 125%とか 126%という数字を記載すると「資源が集まって大変なのであれば、ごみとして燃やした方が良い」という考え方に繋がりがねないのではないかとと思う。

【委員長】

集団回収などに順位づけをしても意味がないのではないかと。つけて参考になる欄と省略した方が良い欄とに選り分けるということも必要かもしれない。

【A委員】

武蔵野市は 14 ページの表で見ると家庭系ごみ量が 25 位という事は、多摩地区の 26 市中でワースト 2 ということ。何が原因か、という点については紙の発生量が多いためと考えられる。ここでは、可燃ごみ中の紙ごみを資源化するというよりもむしろ、発生量そのものを減らすという発想こそが必要。不燃ごみが 26 市中 3 番目に少ない、ということはプラスチックを可燃ごみとして焼却しているからであり、可燃ごみが 15 位という事は紙を資源化していることの表れとも見える。この様に見ていけば、この順位付けの中で武蔵野市のごみの特色がある程度分かるのではないかとと思われるので、順位付けはあった方が良く思う。

【C委員】

今後、施策なり事業を実施するに当たり、このようなデータ分析は非常に重要になって

くる。資源物の評価をどうするか。資源物の量が多いが、資源化して頑張っているのか、経済効果などにより、元から量が多いのか今はわからない。ただ、これからは600gを目指して総量を減らしていくのは間違いなく、そのために必要なデータではあると思う。しかし基本計画は資料編を含めて10年間使うものである。順位のデータは経年とともに変わってくる可能性があるので、このような順位のデータは実施計画を議論する際などに出した方が良くはないか。

【委員長】

この基本計画は、少なくとも5年は使う物なので、資料編から順位は省いた方が良くと思う。

【A委員】

順位はともかくとして、%であらわされた平均との乖離を表したものについてはどうか？先ほど事務局からもあったように、順位の数字は差という部分で実態がわかりにくいですが、平均からどの位離れているという率で表すのであれば、現状が把握しやすいと思うが。

【G委員】

資源とごみの話で、個人的には今もって解せないのだが、資源物の排出量がトータルのごみ量に入っているところに問題があるのではないかと？資源物である新聞・古紙がごみの量に算入されていることを知らない市民は多いと思う。これからは可燃ごみは可燃ごみ、資源物は資源物というように分けて考えないと、先ほどのように「資源は集めるべきか、減らすべきか」といった問題がずっと付きまとうことになる。また、資源物といっても、新聞などのように収集コストと売り払い額が同等のものと、容器包装プラスチックのように収集コストが非常にかかるものとは分けて考えるべきではないか。

【委員長】

そこは自治体のごみ処理の状況によっても異なるところ。例えば市域にごみの処理施設が無く他の自治体にお世話になっているような自治体は、どうしてもごみ量の方を問題視しなければならない。武蔵野市はこれから新しい焼却施設もでき、安定的なごみ処理を続けられるので、ごみと資源物を合わせたそうごみ量を減らすということになる。

【A委員】

収集運搬の費用についてだが、できるだけ家庭から出るごみを減らして、収集回数を減らすということになると思うが、「資料1 基本計画」の22ページ「第4章 今後求められる取り組み (2) ごみと資源物の取り扱いの適正化」の主な事業案のところに「資源物の収集頻度の見直しの検討」とある。資料編の22ページに資源物の現在の量と平成36

年の目標が載っている。我々の団体としてはプラスチックごみの収集運搬経費を減らすためにこれらの減量を進めるため、マイボトルの使用やプラスチック容器の店頭回収の推進などの運動を行っている。ペットボトルやプラスチック製容器包装についても減らしていく事を目指すべきと思っている。ところが、36年度の目標値では、ペットボトルが約50トン、プラスチック製容器包装にいたっては800トンも増えるという数字になっている。我々がやっ払いこうとすることに逆行するような数字である。可燃ごみなどは減っていくようだが、この辺の事はどう考えたらよいのだろうか？

【委員長】

このような傾向は、武蔵野市だけではなく、全国的なもの。そのような流れを延長していくと36年度にはこのような数字になる。家庭で作るのではなく、コンビニエンスストアで手軽に弁当を買って済ませるといったライフスタイルに関わってくる問題。

【A委員】

ライフスタイルを変えるということを前提に計画を作るというのに、目標の数字にこのように表わすというのは如何なものか。

【C委員】

これは、決してプラスチック製容器包装を増やそうという事を考えているのではない。資料編の21ページ「表3-1 ごみの減量・資源化目標」に、家庭ごみ中の資源化可能物の算定数値が入っている。さらに分別を徹底して、プラスチック類を可燃ごみから資源化へ回すということ。さらに10年間で人口が4,000人増えるので、数字上では増えてしまう。ただ、施策を実施する上でそれが良いかどうかという事については議論する必要がある。ただ、最終的には600gという大きな目標がある。今回の議論の中でも量の問題もあるが、コストの事も議論していかなければならない。

【A委員】

この計画の中で、紙やプラスチックをできるだけ資源化するという部分があると思う。実際に可燃ごみ中の資源化可能物といっても、かなり汚れていてリサイクルが大変な物だと思う。その様なものまで資源化するという基本姿勢が良いのだろうか？他の委員のご意見をうかがいたい。

【D委員】

コミセンでイベントをやる際、なるべく調理室の食器を使っていたのだが、年々参加人数が増えてくると、運営委員の高齢化もあり、バガスなども割高に感ずるので、悪いなと思いつながらも紙コップなどを使用してしまう。

【E委員】

汚れた資源物を資源化するために、洗えば洗剤も使うし汚水も出る。トータルで見たときに、環境に負荷をかけても資源化した方が良いのか、燃やしたほうが良いのかについては、永遠の課題かと思う。人である以上時間を買うということもある。家庭でも企業活動でも同じで、何を得て何を捨てるかを決めなければならず、単一的に決められるものではない。先ほど話題になっていた順位に関する資料のところでは、備考欄などで武蔵野市にはこんな理由があるから可燃ごみが多いとか、回収ができているから資源物が多いといった、見る人たちの立場やシーンに応じた読み方のサポートがあればと思う。一人の人が一元的に考えられる課題ではない。普段ごみ問題に触れていない者からしてみると、良いも悪いも見分けられないので「こんな見方がありますよ」ということをサジェストしてくれる資料であると、解決はしないけれど解釈を試してみようかなという気持ちになるのではないかと思った。

【委員長】

ここまでの議事の確認であるが、基本計画の修正については、本書の27ページの「(5) 生ごみ・剪定枝・落ち葉等資源化処理の取り扱い」の主な事業案と付随する35ページの文案修正と、資料編14ページの表から多摩地域での武蔵野市の順位を削除する、という2点でよろしいか？

【事務局】

順位については本書の16ページ「表2-3 多摩地域における武蔵野市のごみ量について」にも記載がある。

【委員長】

ここについては、現状をわかり易くするためのものなのでよろしいと思う。

【A委員】

確認だが、先ほどの計画目標値のところ容器包装プラスチックが増えるというのは、いま可燃ごみに入っている容器包装プラスチックを全量資源化するという考え方であるのか？先ほども言った通り全量ということは、ひどく汚れたものも資源化することになるのだが。

【事務局】

資料編の21ページ「表3-1 ごみの減量・資源化目標」の表中の「④燃やすごみの中の汚れたプラ」の資源化可能割合が7.7%で、資源化目標は3.85%であるので割合は50%である。

【F委員】

このような資料を作る際に、各種の図や表については出典を明記して欲しい。漏れているところがある。

【委員長】

ご指摘のとおりである。事務局は出典を明記して欲しい。

他に何かあるか？（意見なし）

それでは、若干の修正を行ったうえで、この基本計画を当会議の検討結果ということで武蔵野市長に答申するということにしたい。

今後のスケジュールについて、事務局からの説明を求む。

【事務局】

今後のスケジュールであるが、今回の会議でいただいたご意見を踏まえ修正を加えたのち、3月中旬に委員長、副委員長から武蔵野市長に答申をさせていただきたい。議会等があり、日程は決定していないが目標としては今年度中の答申を、と考えている。

今後の当市民会議の予定であるが、来年度の実施計画に当たるもの、個々の事業について4月あるいは5月位までには、ここでご報告させていただきたい。また、合わせて毎年度作成しているごみ処理の実施計画についてもお示しをしたいと考えている。

【委員長】

それでは、本日の議事はすべて終了した。

一年間かけて活発なご議論をいただき、ようやく基本計画をまとめることができた。長い間、皆さまにはお世話になったが、以上をもってこの「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画」について成案を得ることができた。

改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

以上をもって本日の会議を閉会とする。ご苦労様でした。

以上